

# みつくら

令和 2年 9月15日 第322号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 今年最後の草刈り

9月5日に下大瀬川美土里の会（高橋義晃会長）では、今年最後となる草刈りを38名の参加で行なった。作業前に「刈払機の安全読本」が配られ、熊谷惇さんによる「安全作業の仕方」の講習が、実機を使いながらソーシャル・ディスタンスを保って行われた。9月に入っても暑い日が続く中、「熱中症対策」のパンフレットも配布された。

また、執行部からオオハンゴウソウ（キク科黄色の花が咲き、1～3mの高さになる）のチラシが配られ、「この花は非常に繁殖力が強いので種子が落ちる前に刈り取るか、引き抜いて頂きたい」とあった。一見、綺麗に見えるので鑑賞用に植えている方もいるが「特定外来生物」に指定されており、栽培等が禁止されている。違反の場合は「個人で3年以下の懲役もしくは300万円以下（法人は1億円以下）の罰金」が科されるとのこと。その後、各班に別れて東西の幹線道路や南北の脇線道路の草刈りとふれあい運動公園近くに咲いていた「オオハンゴウソウ」の群落の草刈りも行った。

## 今年もイノシシ被害が増大

昨年度、大瀬川地区では4頭の熊が捕獲され、今年も全国的に熊の出没被害が多く報道されているが、当地域では7月に7区で熊の被害の報告の後、余り聞こえていない。一方、イノシシ被害が今年も多く確認されている。花巻市石鳥谷総合支所に問い合わせたところ、『西部の「大瀬川地区」・「富沢地区」・「大興寺地区」の被害が多く、現在市や猟友会では「箱かな」や「括りわな」を設置していますが、地域ぐるみでの「エサ場・隠れ場をなくする」取組みも必要です。また、市では、農産物などの被害を防止するための電気柵を設置する経費を補助しています。個人申請は、1/2（上限7万円）・団体申請には3/4（上限30万円）となっており、設置前にご相談下さい。』ということであった。問い合わせ先は、石鳥谷総合支所産業係0198-41-3442となっている。

何れ、狸、狐、ハクビシンなどの野生動物の被害が増大

傾向となっている中、侵入防止柵設置のほかにも、野生動物の住み家となる林や草むらの適期間伐や空き家管理について、地域で考える時期と思われる。

## 小屋場付近で落雷被害が多発

去る、8月30日の午後4時30分頃、小雨が降り出した直後に強い稲妻が走った。と同時に激しい雷の音と地響きが起きた。落雷があったのは2カ所で、1ヶ所は板垣匡俊さん宅の杉の木と、もう1ヶ所は大平昭夫さん宅の東側の畑と思われる。この落雷による被害は、板垣匡俊さん宅のボイラーが故障、電話線は柱で断線、電力メーターで停電（リセットで復旧）、小屋に置いていた米用冷蔵庫が故障。杉の木は縦に割れて周りに皮が飛んでおり、根本のトタンには電気が流れた跡が残っていた。130m離れた板垣公さん宅ではFAXが故障し、ソーラー発電のセンサーが異常点滅で交換が必要となってしまった。2ヶ所目と思われる300m離れた大平昭夫さん宅ではテレビ用ブースター、電話機、ブルーレイレコーダー、光回線用ルーターが故障。隣の菅原昭悦さん宅ではボイラー、電話機、テレビ、モデム、LED電球が故障したほかに電力メーターが焼損し、電気が復旧したのは午後7時半を過ぎていた。

また、玉山パーマ屋さん宅ではボイラーが故障して営業が出来なくなり、向かいの板垣弘清さん宅ではテレビが故障した。そのほかに、板垣美智子さん宅はボイラーが故障し、さらに防犯灯が3基点灯しなくなってしまった。

今回は、突然の雷と、2ヶ所同時に落雷したと思われる非常に珍しいケースだったのではないだろうか。その大きなエネルギーが放出されたことによる現象の一つとして、菅原悦子さんは家の中で火の玉が見えたと話していた。人的災害がなかったことが不幸中の幸いだった。

## 市老連石鳥谷支部スポーツ大会で3クラブが活躍

8月25日と29日に花巻市老人クラブ連合会石鳥谷支部（葛岡一男会長）主催のスポーツ大会がスパーク石鳥谷、石鳥谷体育館、江曾運動公園で開催された。

25日はスパーク石鳥谷でゲートボール競技が行われ、20チームが参加した。結果は、7区の大瀬川高齢者クラブ（菅原富男会長）と9区の大瀬川第一老人クラブ（熊谷善志会長）の合同チームが出場し第3位に入賞した。また、同日石鳥谷体育館でも20チームが参加してステックボール競技が開催され、大瀬川第一老人クラブが3位決定戦で惜しくも敗れて4位になったが、主催者から暑い中での熱戦に特別に賞品が贈られた。

29日は江曾運動公園でグラウンドゴルフ競技が開催され、8区の大瀬川中央長寿会（菅原得之会長）と大瀬川第一老人クラブが出場した。この日も強い日差しの中、120人もの選手がクラブを手にホールインワンを目指してラウンドした。ホールインワンは大瀬川のメンバー（板垣幸夫さんと板垣公さん）からも出たが、残念ながら団体の部では上位には入れず、個人の部で熊谷レイ子さんが4位になり市大会の選手になった。

例年よりかなり遅れた開催だったが、支部の最初の事業になった。両日とも30℃を超える厳しい残暑の中で、熱中症を気遣いながらのスポーツ大会となった。

## あじさいの会が「ふれあいサロン」を再開

あじさいの会（板垣福子会長）はコロナ禍で休止していた元気でまっせ体操を6月から再開したが、サロン活動はまだ開催していなかった。ほかの地区では再開したとの情報もあって、当会では9月22日に「ふれあいサロン」を開催することにした。サロンの内容は高齢者交通安全教室で「交通指導員による寸劇」。会費は100円となっている。

板垣会長は、「今はなかなか外出もしにくいので、家の中に居がちですが、体力も落ちますので、頭の体操とお口の体操にいらして下さい。当日は送迎もするので会員の方に遠慮なく参加してほしい」と話していた。

## 葛丸川草刈り行方

9区自治公民館（熊谷武忠館長）では、2回目の葛丸川河川敷片側の草刈りを9月6日に42名が参加して行った。

朝8時に集合して各団体からの報告の後、ペットボトルのお茶を受取って、1班は大瀬川橋から東へ、2班は富沢橋から西へ、3班の半分は富沢橋から東へ、残り半分は松林寺橋から西へと草刈りをして、それぞれの合流点で終了し現地解散となった。

## 第13分団が消防操法技能維持のために放水訓練

石鳥谷町消防団では「今年度はコロナ禍で消防演習もポンプ操法大会も中止となってしまったので、このままでは技能が低下してしまう」と危機感を感じ、第13分団の第1部から第4部までの20名が7月19日に石鳥谷総合支所の西側の道路を使用して分団ごとに放水訓練を行った。

当日は、午前と午後に分けてポンプを連結しての延長放水訓練で、第13分団の4台のポンプを連結して近くの用水路から水を取水し、消防ポンプ車・可搬式ポンプ・消防ポンプ・可搬式ポンプの順で繋いで火点まで放水した。今回は機能別隊員（退団後の隊員）も訓練に参加し、距離も長いので、ポンプの機関手と放手の、トランシーバーによる連絡訓練も行った。

日頃の消防団員の訓練に敬意を表するとともに、今年は大瀬川でも原野火災が発生し、水のない場所や消火栓が遠い場所も多くあるので「常日頃から火の用心」に心がけたい。

## 「お話し会」を開催

9区たんぼぼの会（熊谷幸子会長）では、8月19日に12名が参加して「お話し会」を行って、近況報告をしたり、昔懐かしい童謡を歌ったりして楽しく過ごした。会では、コロナ対策をしながら、毎週水曜日の午前9時半から「元気でまっせ体操」を行っている。「継続は力」なりです!!!

# みつくら

令和 2年 9月15日 第322号  
 発行 大瀬川活性化会議  
 編集 「みつくら」編集委員会  
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2  
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

## 歴史探訪講座でアマチュア無線を語る

8月24日に「大瀬川とアマチュア無線」をテーマに19名が参加して第65回歴史探訪講座が行われた。講師は板垣公さんが務め、2頁の資料で、「そもそもアマチュア無線とは何か」から講話が始まった。

電波は「人類の共通財産」で現在では電波無しでの生活は出来ない時代になっている。携帯電話が出る前は、アマチュア無線が一時期「趣味の王様」と言われたこともあった時から、大瀬川でもかなりの方が無線従事者免許証を持っており、今回の講座に多数参加頂いた。また、電波を出すには無線局免許状も必要になるので、実際に開局した人は20名近くいた事も判明した。ただ、残念なことに4名ほどは亡くなられたとのことだった。

この大瀬川で、一番活躍したのは高橋清志（JA7AKB）さんで、今回は奥さんの高橋あや子さんが参加していたので、色んな話しが聞かれた。また、参加者の多くがアマチュア無線を実際に運用した日々の経験談や、興味を持った経緯などの話題が多く出て、時間をオーバーしそうになった。

現在でも、アマチュア無線局は大規模災害や事故でも活躍しており、最近では東日本大震災で日本アマチュア無線連盟から岩手県に100台の無線機が送られて災害救助に使用された事例もある。

## 基盤整備区画図面確認が行われる

大瀬川地区基盤整備推進委員会（菅原教雄委員長）主催の整備区画図面確認が、8月19日に7区自治公民館、20日に大瀬川振興センター、21日に9区自治公民館で行われ、延べ112名（大瀬川地区以外13名含む）が参加した。

菅原委員長から「自分の水田区画を確認して頂き、区画対象への要望を出してほしい」とことと「相続登記を来春を目途に進めてほしい」とあった。各地区には、山王海土地改良区職員も出席し、参加者の質問などの対応を行った。鷹嘴事務局長からは「大瀬川地区の今後10年先の農業の在り方や、農地集積や集約を踏まえて区画図面を確認してほしい」との

挨拶があった。

参加者は、提示された区画図面を「拡大鏡」を使用しながら確認し、それぞれ要望を図面に書き入れた。

今後は、この要望を踏まえた修正図面が提示されることとなっており、再度確認して頂きながら基盤整備事業が進む事となっている。

また、この基盤整備事業は北寺林・八幡地区との同一的構構が必要となっており、県内の中でも基盤整備面積は大きく、長期化すると考えられ、今回の図面確認はその一歩となった。

## 板垣さんの写真が展示

板垣弘清さんが会員になっている森のアトリエ主催の「第19回森のアトリエ写真展」が、8月28日から3日間北上市江釣子ショッピングセンターで開かれ50点の写真が展示され、葛丸写真クラブの有志4人が鑑賞に訪れた。

板垣さんは、「風薫る丘陵」「森の大王」「幻霧に佇む」「秋色の里」「湖上の銀河」の5点を展示、その中で「風薫る丘陵」は、野花在咲いている牧野の稜線を防風林と真っ青な空の中に、何とも言えぬ薄い雲が写っており、その背景バランスの素晴らしさに目を見はった。板垣さんからの解説では葛巻町で撮影したとの事。他にも「森の大王」は、秋田県にかほ市での撮影で、太いブナの木の天狗の鼻のような大きな瘤（こぶ）を写したユーモラスな作品であった。夕方のNHK「おぼんです岩手」を見ていたら、4人の一行が鑑賞している姿が映されていた。

## 人事（敬称略）

花巻市社会福祉協議会石鳥谷支部  
 支部長 熊谷秀夫（R2年4月～）  
 第8区自治公民館  
 館長 菅原洋二、副館長板垣成子（令和2年8月から）

## 表彰（敬称略）

山王海土地改良区理事長表彰  
 菅原 弘雄

## 葛丸の農村・・・が早朝一斉草刈り

葛丸の農村環境を守る会（板垣幸夫会長、構成員戸数240戸）の令和2年度第2回早朝一斉草刈りは、8月29日に65名が出役して行われた。この日は、尾平農道や薬師堂川、ふれあい運動公園近くの上新田堰の草刈をしたもので、午前5時30分から7時までの1時間30分であった。葛丸の農村環境を守る会では、殆どの活動には日当を支給しているが、農地・水組織が出来る前には、無償で奉仕していた大瀬川農村公園や主要農道、一級河川、ゴミ拾いなどは奉仕の精神を引き継ぎ、現在も日当無しで、ボランティアで活動している。早朝一斉草刈を始めた平成26年度は、毎回100人を超えていたが、年々出役者が減少し、今回は往時との比較で35%減である。

## 事務局 お気軽にお入り下さい

○今年も終戦の日を迎え、各報道機関は世代を超えて伝える為の特集を組んでいた。その中の読売新聞岩手版に掲載された特集を読んで、大瀬川に残る終戦時の「覚悟」なる文獻を思い出し再読した。

板垣覚兵衛（上野々家）が書いたそれには、崇高な「覚悟と再建」への呼びかけがあった。当時の文章の書き方にある崇高さと、単語の表記に興味を惹かれたので掲げてみたい。「勝抜ク為ニ頑張レ、食料増産ニ努メヨ、済民（※経世済民の事で、世をおさめ、民を救うという意味）ノ御奉公ハ正ニ今ダニ寸時ノ想ヒ出モ無ク、上司ノ命ニ従ヒ、部落渾然一体（※こんぜんいつたい。全体が溶けあって一つのものになること）ノ活動ニ傾注センモ遂ニ空シク、昨年八月十五日ノ終戦ノ御詔勅（※ごしょうちよく。天皇の発する公式文書）ハ下ツタノデアル。

農民ハ今コソ最後ノ御奉公ト、春カラ秋マデ心身ノ疲労モ打忘レ、倒レルマデ奮闘シ収穫セン。食料ハ我国ノ為ニ供出ス。昨二十年七月頃ハ部落ヲ挙テ飯米ニ窮シ、県、地方事務所、町当局ノ応援ヲ得テ配給米ヲ得ル等列挙ニ違（※いとま）無キ程ノ挙ニ困憊（※こんぱい。苦しいこと）に疲れ果てること）ヲ嘗メタリ。

終戦ニ依ル人身ノ虚脱状態ハ、極メテ顕著ナルモノアリ。然ルニ、部落民ハ皇国再建ノ気魄（※きはく。他に力強く働きかける精神力）ニ燃へ、協力ノ実態又見ンベキモノアリ。

四月十日執行セラルベキ衆議院議員選挙ハ、婦人参政権ト相俟ツテ（※あいまって）古今未曾有ノ举措（※きよそ。立ち居振る舞い）又はおこない）デアリ、其ノ帰趨ハ国民共ニ重大ナル関心事タリ。男モ女モ同権ノ旗印ノ下ニ新日本ヲ再建、平和日本再建ニ相邁進ヲ誓フモノデアリ。

此ノ度ノ世ノ変遷ヲ、実ニ前古未曾有（※ぜんこみぞう。昔からかつてなかったほど珍しいこと）ノ事ニシテ、以テ報国ヲ誇リシ。

歴史ノ国日本モ敗戦ノ烙印ヲ捺サリタリト、誰モ虚脱ヨリ奮起ヘト転換セシ、一層ノ部落融和ヲ翼賛シ、協セテ（※あわせて力を協わせて・・・）区長引継ノ言葉ト致シマス。」敗戦から次の時代へ向かう、何と崇高な文章ではないか

○先日、草刈りをしていたらネジバナが咲いていた。細長い茎の周りにピンクや白の花をグルグルと咲かせる不思議な花で、花がねじれながら咲くことから、その名もずばり「ネジバナ」。

ラン科の花ではあるが、どこにでも咲く雑草として刈り取られることがある。その一方で古くから園芸品種として育てる愛好家もいるが、環境の変化に弱いため、長期栽培は専用の環境を維持しないと難しいと言われている。花には右回りもあれば左回りもあり、また途中で回りが逆向きになるものもあり自由気ままに花を咲かせる。

花言葉は「思慕」であり恋い焦れるという意味となっている。